

第11回(通算2672回)例会記録 2015年(平成27年)9月16日(水)

司会進行/遠藤 正夫

ロータリーソング/奉仕の理想・四つのテスト

ゲスト/宮地 竹史氏(石垣島天文台 所長)
入口 初美氏(石垣島自然ファームアス)
吉本 多香美氏(女優)

メークアップ/白道直行・宮良榮子・羽地宏幸
前木繁孝・上勢頭保・米盛博和・大瀨達也(計7名)

出席報告

会員総数 38名 出席義務会員 37名
出席数 24名 欠席数 13名
出席率 64.86%(9月 通算出席率 68.47%)

本日のニコニコ

BOX ￥ 0(累計¥26,000)
コイン ￥ 0(累計¥28,375) **合計¥54,375**

会長挨拶：新 賢次



皆さんこんにちは。先日の新聞のお話をさせて頂きます。4・5日前に地元紙に県の無形文化財指定の記事が載っていました。古典民謡の先生方が19名、伝統芸能の先生方が11名、合計30名の先生方が県の無形文化財指定の認定を受けたという事で取り上げられていました。大変素晴らしいなと思いました。今年度のテーマ、「文化」を掲げていますので、注目したわけですが、八重山の伝統芸能はまさしく文化の代表的なものですので、これを機に益々発展をしてほしいなと思いました。

さて、本日は八重山の星という事で、卓話をお願いしています。ご承知のとおり八重山の星、最近では観光の強力な誘客の要素になるという事で、観光交流協会も挙げて取り組んでいる所です。星まつりもかなり定着しております、八重山の星

を売り込もうという事で、地域をあげております。星文化の面もあると思いますが、思えば旧暦の伝統行事もまだまだたくさん残っている八重山の地において、そういう文化の面から見ても星というのは関連があるのかなと思います。その辺りの話もお聞かせいただければと思います。竹富には星見石というのがあって、昔の農業と深い関わりがあるようです。また星は神秘的で広大な存在ですから、捉えにくいなと思いつつも、神秘的かつ魅力的だと思う所がいっぱいあります。例えばはるか彼方に輝いている星は何万年前の姿だったりするわけです。現在と過去が結びついているような、そういう現実を感じたりします。聞くところによるとブラックホールというのは、時間が止まるそうです。不思議で理解が難しい所がありますが、広大な不思議な世界というのが魅力の1つだと思います。現実に見える星空の魅力もありますが、見えない所の魅力もあるのかなと感じております。

ゲスト卓話:宮地 竹史氏

石垣島天文台 所長



私は石垣島で電波望遠鏡と石垣島天文台2つを見ています。石垣島に来て、八重山の星空が大変素晴らしいので、これを観光資源にしようじゃないかという事で2000年くらいから言い続けてきました。星まつりが始まったり、いろいろな事があった、今は毎日のように観光関係の方から問い合わせがあって、写真を使いたいとか、旅行で行きたいんだけどとかという話が来ます。10年前、星でお客様が来るもんか、と言われていたんですけど、打って変わって、今は星でお客様を八重山に呼ぼうという時代になって、様変わりしています。

2002年一番最初に名蔵に電波望遠鏡を造って、国立天文台としてはこの望遠鏡を造ったら、あとは自動で運転して引き上げるはずでした。市民の皆さんから世界一の電波望遠鏡と言いつつ、星が見えないじゃないと言われて、石垣市長も陳情され、やはり星の見える望遠鏡が必要じゃないかという事で、我々としては全く予定していなかった、マスタープランにもなかった石垣島天文台を造る事になりました。文科省から色々言われまし

たが、島の人達が星に熱心で、日本中でもこれほど星空に関心のある街はないんじゃないかと言って、造って頂いたのが九州沖縄で一番大きい億円しますが、口径105cmの望遠鏡です。これを2006年に造って、来年は10周年になります。どんどんお客様が増えて今や13,000人が来ております。最初はトイレが1個でしたが、3,000万くらいかけてりっぱなトイレも造りました。また中山市長に変わってから、今まで無料で土日やっていましたが、今はウィークデーは料金を戴いて、タクシー会社や観光業者の皆さんにもお世話になりながら有料の観望会をやっています。有料でお客様来るのかと思ったらタクシー1台で9600円くらい、1人でいらっしゃるお客様もいるわけです。やはり今、石垣島ではお金がある方がかなり来ているんじゃないかという気がしています。そういうお客様をターゲットに長期滞在型のツアーを石垣島、八重山で組んだらどうかと昨日JTBの方とお話させて頂きました。

星でお客様をこれだけの設備がある石垣島に呼ぼうという事になっていますが、2年前に出来たのが星空学びの部屋です。沖縄県に一括交付金が来たという事で、これは石垣市の皆さんと市役所の皆さんと相談して雨の日でも、曇りの日でも、昼間でも星空に親しめるようにという事で3Dの映像を投影して、宇宙の果てまで旅が出来るようにという事を提案しました。どうせ作るなら一番新しいものを入れようという事で、200インチのスクリーン、日本の平面スクリーンでは一番大きいです。この前に座ると宇宙船の窓を見ているように、そのまま宇宙旅行をしている雰囲気になる事が出来ます。それからメガネも今までは偏光方式と言って縦波横波の光を交互に入れてましたが、私たちはアクティブシャッター方式、メガネが液晶になっていて右目と左目を切り替えながら見られるという1個2万円くらいのメガネを入れています。内閣府の人が一括交付金がどんなふうに使われているのか見に来ましたが、来たときは機嫌が悪かったんですが、沖縄県はろくなものを作っていないという事で来たんですが、これを見終わった後に立ち上がって、握手を求められ「これは一括交付金の中でも一番いいんじゃないか、宮地さんこれは一括交付金で作ったと必ず言って下さい」という事で、今日お話しているんですが、それだけ素晴らしいものが石垣島にあります。だから修学旅行とかで下見にいろんな高校の先生が来ますが、これだけの設備がこの小さな島にあるというのにみんな驚いていて、今修学旅行のお客

さんも増えていますし、大学生のグループとかいろんな研究会を石垣島でもやられるようになって、エクスカッションでこういう施設と一緒に見ようというふうになっています。だから割とお金持ち、インテリ、学者という人たちが八重山に来るきっかけにはなっているんじゃないかと思います。

あとないのはプラネタリウムです。八重山にも本格的なプラネタリウムを造って星文化とか星見石とか星にまつわる民謡とか民話、そういうものを紹介する施設を造りたいと思っています。またいろんな研究会があります。来年の2月に国際研究会、天文関係の研究会がありますが、今世界中の研究者の人が京都や箱根は飽きていると、石垣島でやると言うて来るんです。そういう意味でもプラネタリウムと国際会議場を併設するような施設を石垣島で造って頂ければと思います。

星の話をしてほしいといけない。

石垣島は海に沈む太陽を見るというのが夏至の頃、北の空に沈む頃しか海に沈む太陽を見ることができないわけです。鳩間島に沈む太陽の写真なんです、なぜ撮ったかという、琉球大学の学長が鳩間島出身という事で、大城学長に見せるために撮ったものです。これだけ天文学が石垣で盛んになっております。高校生の関心も高くなってきていますが、琉球大学に天文学講座がないわけです。だから大城学長に学長がいる間に琉球大学天文学講座を創りましょうと、沖縄の星空を沖縄の大学で勉強できるようにしましょうという事で、今言っている所ですが、そういうPRを兼ねてこんな写真を撮ってプレゼントしたりしています。

皆さんグリーンフラッシュ知っていますか?石垣島に来て、よく新聞にグリーンフラッシュが撮れましたと掲載されます。私も半信半疑でそんなにグリーンフラッシュって見れるものかなと思っていたら、本当に週に2・3回見えるんですね。夏の6月7月くらいはすごく明るい日はグリーンフラッシュ見られます。

この2年間石垣島に住居を移して毎日眺めることが出来て、撮れた写真ですが、何がいいかというと、南十字星が街の上に光っているのが見えるわけです。日本広し、世界でも南十字星を街の上に見るといいのではないかと思います。これからカノーブスが出てきます。カノーブスは南極老人星と言われていて、この星を見ると長生きをされると言われています。カノーブスが低い位置、特に山の上に見られるというのは日本の中でも石垣島だけなんです。東京ではカノーブスが水平線で、星の好きな人はマンションの上の上がってお正月の空



世界へのプレゼントになろう

K. R. ラビ・ラビンドラン

会長:新 賢次 副会長:前木 繁孝
直前会長:上原 秀政 幹事:宮良 薫
副幹事:前原 博一 SAA・出席:羽地 宏幸
情報・会報:名渡山秋彦

創立記念日 1962年3月12日 (55周年)

2015年(平成27年)10月7日(水) 第13回 例会(通算2674回)

気が澄んだ時に見えるわけですが、石垣島では毎晩のように見ることができます。それも山の上に見ることができます。

それからおうし座の三角形、ここにムリカ星(スバル)の事ですけど、昔の人はムリカ星を星見石を使って高さを計って、この高さに来たらみんなで田植えをしようとか稲刈りをしようとか話をしていたわけです。こういうお話もプラネタリウムの中ですることができればいいなと思っています。

ばいが星と南十字星、2個ある星と4個ある星です。1等星が21個ありますが、全部見ることが出来るのが石垣島だけなんです。このばいが星が真横に並ぶと稲刈りの時期だと、昔の農家の人は決めていたし、海人はカツオを獲りに行こうとか決めていたわけです。南十字星は大航海時代にヨーロッパの人たちが付けた星座なので、八重山の人達は全然知らない、無視してこの2つの星で暮らしを立てていたわけです。この前黒島に行ったら海人の人達がばいが星だけじゃないよと北極星(にぬふぁ星)は夜沖に行った時に北にあるんだけどばいが星は南の方角を示す星だということになっています。まさに南の星で、南の方角を知るためにも重要な星だというお話を聞きました。本当に八重山は皆さん昔から星と共に暮らしてきた、星を目当てに暮らしてきたことが非常によく分かります。こういう星文化をぜひもっともっと伝えることができればいいなと思っています。

実は1983年にわし座のアルタイに電波を送ってあるんです。地球にこういうふうにいるぞという信号を送ったんですが、もし向こうに地球人くらいの高度な文明があれば、じゃ返事を出そうと送ってくれてるかもしれません。16の往復で32を足すと2015年今年辺り返事が来るかもしれないという話もあります。

流れ星のことをホシ(星)ノヤー(家)ウチー(移)と言って、お星さまの引っ越しというのが沖縄の呼び方です。流れ星を見たら「お星さまが今日もお引越しをしてるね」というのが流れ星の呼び方です。石垣島の空気がいかに澄んでいるかというのは月の明りで虹が見えます。東北大震災の翌年のお正月に見えたので、全国の新聞が載せてくれたんですが、幸せを呼ぶ虹と、みんなが震災で打ちひしがれている翌年のお正月に、こんな素晴らしいものが見えたという事で、報道して頂きました。太陽の明るさの4万分の1くらいの月の明かりでわずかに見えるんです。こういうのが見られるのは石垣島の空気の素晴らしさです。こんな素晴らしい島に私たちは住んでいるわけです。ぜひ

子供たちにも自信を持ってこんな素晴らしい島に我々がいるんだという事を言って頂きたいと思っています。

その中で名蔵湾に流れ込んでいる淡水魚の川なんですが、昔マラリアを無くすためにボウフラを食べるお魚、タップミノを入れてボウフラを食べさせたんですが、メダカまで食べてしまって、メダカがいなくなったという事で、宇宙メダカを石垣島にくださいという事で、この前鳥取まで行って市長から佐治天文台のメダカをもらって、名蔵小中学校の子供たちに贈呈してきました。これを運ぶにあたってはJTAさんの皆さんにご協力を頂きまして、メダカ用の座席を用意してもらって無事運んでまいりました。名蔵小中学校の理科室で元気に泳いでいます。今日は身近な星の話をさせて頂きました。

～例会風景～



3回目の卓話、ありがとうございました。



<今週の職場:遠藤正夫土地家屋調査士事務所(遠藤 正夫会員)>

平成12年、遠藤正夫土地家屋調査士事務所を開業し現在に至っています。業務内容は、土地分筆登記・地目変更登記・境界復元測量・建物表題登記等の土地又は家屋に関する調査測量及び登記申請手続きです。土地家屋調査士法は、その業務の適正を図ることにより、不動産の表示に関する登記手続きの円滑な実施に資し、これによって不動産に係る国民の権利の明確化に寄与することを目的としています。

例会日 水曜日 12:30~13:30
例会場 ホテル日航八重山(0980)83-3311
事務局 〒907-0013 石垣市浜崎町1-1-4

TEL/FAX(0980)83-2917
URL <http://ishigaki-rotary.jimdo.com>
E-mail ishiroatary@ninus.ocn.ne.jp